

様々な主体が誇りを持って活動する

みんなで学び考え、実践する 生活環境都市

(環境都市の構築に関する調査のまとめ)

平成 27 年 3 月

足 立 区

今、足立区に求められていること

(1) ボトルネック的課題への対応

区では治安、学力、健康、貧困をボトルネック的課題として位置付け、中でも子どもの貧困対策を最重要課題に位置付けています。子どもの貧困は、治安や学力の課題にもつながるだけでなく、世代が変わっても貧困が連鎖するなど悪循環に陥る可能性が高くなります。

環境学習を充実させ、中長期的に経済的に自立して人生を豊かに生き抜く力を身につけ、社会に貢献できる大人に育つことにつなげていきます。

(2) 都市更新

東京近郊の農村地帯から昭和 30、40 年代に急速に都市化して 50 年近く経過しました。社会情勢や環境の変化に対応した都市への更新時期を迎えており、建物は順次建て替えが進んでいます。これは低炭素な建築物やまちづくりを実現するチャンスともいえます。

(3) 地域の安心・安全の確保

首都直下型地震や、気候変動の影響による極端な気象状況の発生増が見込まれています。風水害や熱中症、感染症などの健康被害のリスクを的確に認識し、影響を軽減する適応策や、災害時におけるエネルギー供給のあり方など復旧・復興を視野に入れながら、安心・安全を確保していく必要があります。

(4) 持続可能な地域へ

従来のような右肩上がりの経済、社会情勢は望めません。快適な暮らしと首都東京を支える活力ある地域経済を維持しつつ、環境負荷を減らすとともに、環境の視点から新たなビジネスを構築します。これにより、環境保全と社会経済活動が調和した将来にわたって持続可能な地域を実現していきます。

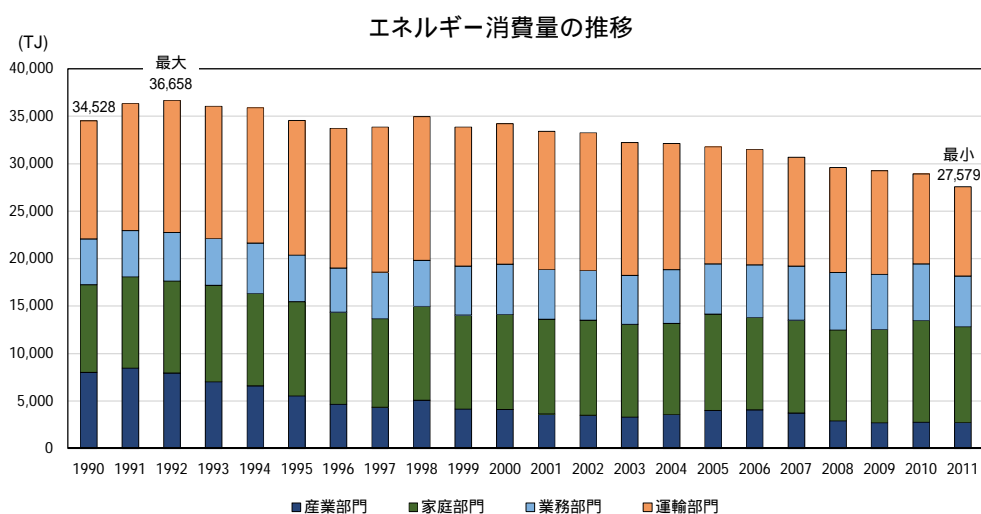
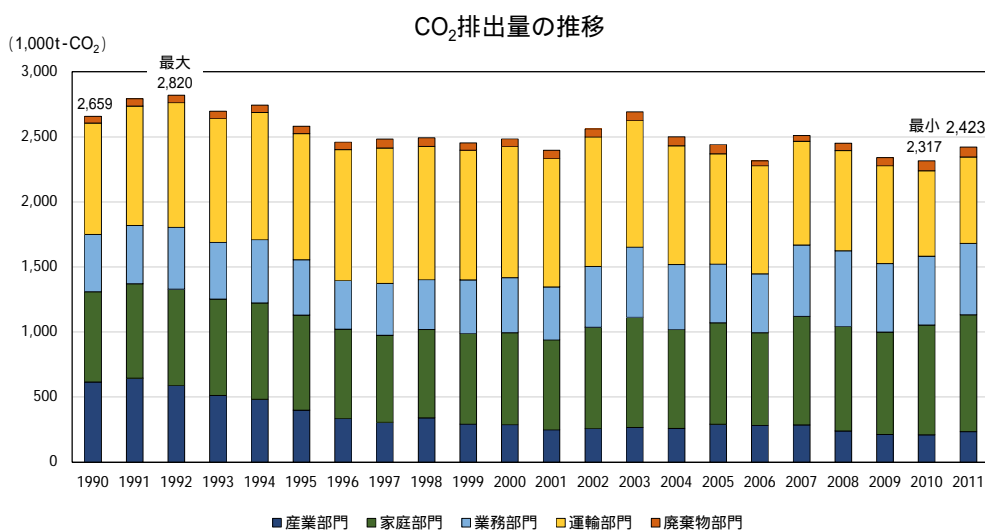
(5) さまざまな主体との連携

環境問題は、中長期的かつ地球全体の視点で考えることが重要ですが、森林や生態系の保全など、区内で実施することが難しい活動もあります。また、先進的な技術の革新や研究、そのための実証も必要です。このため、区では、区民・区内の事業者・団体はもとより、他の自治体や研究機関などさまざまな主体と連携した取組みを進めていきます。なお、実施にあたってはそれぞれの特性を活かし、双方にメリットのある長期的な取組みが求められています。

足立区の温室効果ガスの排出量

1990(平成2)年度と2011(平成23)年度を比較すると、足立区の温室効果ガス排出量は約9%、エネルギー使用量で見ると約20%減少しています。

また、部門別にみると、製造業などの産業部門が減少している一方で、家庭部門及び商業・サービス業などの業務部門は大きく増加しています。



1990年度と2011年度の部門別CO₂排出量の比較

(単位:1,000t-CO₂、%)

部 門	1990 年度	2011 年度	差	増減率
産業部門	615	234	-381	-61.9%
家庭部門	694	897	203	29.2%
業務部門	442	551	110	24.8%
運輸部門	856	664	-192	-22.5%
廃棄物部門	53	76	23	44.5%
合計	2,659	2,423	-237	-8.9%

注:四捨五入の関係で各部門の積み上げと合計が一致していない。

足立区の環境政策の基本的方向

(1)環境学習と人材育成 ～地域を意識して、環境を学び、考え、行動する～

足立区は、物価の安さや下町の人情、地域の絆などの長所があります。また、足立区は都心に勤める方の居住地であるとともに、廃棄物処理、運輸・物流、生活必需品の製造など、東京の社会活動を支えています。これら長所や地域特性を積極的に区民にPRすることにより、足立区内の環境行動が東京の環境負荷低減に大きく貢献するという環境意識を持たせることで地域にプライドを持つ人を増やしていきます。

子どもの頃から大きな視点で地球環境を学ぶ機会を提供し、自らが環境問題について積極的に考えることができる人材を育成します。さらに育成された人材が、日々の暮らし、職場、学校、地域などそれぞれの活動の場で環境行動を積極的に実践し、そのネットワークを広げていく風土を醸成していきます。



(2)地域特性を踏まえたエネルギー対策

～エネルギーを減らし、つくり、うまく使う～



区の地域特性を踏まえ、エネルギー使用量を減らす省エネ、再生可能エネルギーの最大利用、エネルギーを効率的に使うスマート化の3つのエネルギー施策を戦略的に推進し、化石燃料を使用するエネルギーの比率を減らして低炭素化を図ります。また、平坦な地形を活かした自転車の活用、公共交通網の利用促進、運輸や福祉施設などのエコカー導入により、交通の低炭素化を進めます。

(3)大都市における循環型社会モデルの構築

～廃棄物・リサイクル事業者が多い特色を活かして～

区内に廃棄物・リサイクル関連事業者が多いという地域特性を活かし、これまでも進めてきた事業者と連携した廃棄物の資源化をさらに推進します。ごみ減量とリユース、リサイクルについて大都市におけるモデルとなる取組みを行います。

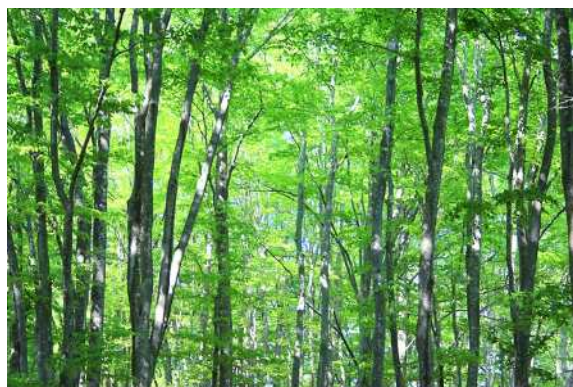


(4) 未来と地球を視野に入れた連携

～区で難しいことはさまざまな主体との連携で～

区内で可能な活動を最大限行いつつ、森林整備による温室効果ガスの吸収、生物多様性や水環境の保全など、大都市では難しい地球環境保全に貢献する活動については、他の自治体と連携して推進します。

また、大学や研究機関などと連携し、未来の先進的な技術開発や制度設計などについて、区内を実証の場として提供します。



(5) 災害や環境変化への対策と適応 ～将来も持続可能な都市へ～

災害時のエネルギー供給や、影響が現れ始めている地球温暖化への適応を進めることで、環境に配慮しつつ、柔軟に環境の変化に対応できる安心・安全な都市を実現します。

エネルギー対策として実施する断熱・気密性能向上は、室内の温度差を改善することで、ヒートショックの防止につながります。また、移動の低炭素化を図る公共交通や自転車利用の推進は、健康増進や運動習慣にもつながる効果も期待でき、特に「ウォーキングの習慣」は、高齢者の介護予防にもつながります。まちを歩く人が増加することは、住民同士の交流を増やし、地域商業の活性化に波及していきます。

このような環境負荷軽減と健康、介護予防など様々な相乗的な効果を結びつけた取り組みを進めていきます。



10年後の足立区のイメージ

学び、実践する都市

- ・ 幼少期からの環境学習が体にしみついた20代、30代が環境行動をリード
- ・ 自主的な活動が盛んなさまざまなネットワーク
- ・ 区の環境学習を経験した若手の環境問題研究者が誕生
- ・ 日常生活や事業活動で常に環境に配慮
- ・ 意志決定時に環境への影響が少ない方を選択
- ・ みんなで学び考え、実践する風土

環境と経済が調和する都市

- ・ 平坦な地形と公共交通を活用した効率的で低炭素な移動、輸送
- ・ 低炭素、循環、自然との共生を重視したまちづくり、建物づくり
- ・ 環境面から首都東京を支える環境ビジネスの発展
- ・ 便利で快適な暮らしや活発な事業活動と、環境負荷低減の両立
- ・ 地産地消による高効率なエネルギー使用

さまざまな主体が誇りを持って活動する

みんなで学び考え、実践する生活環境都市

地球環境に貢献する都市

- ・ 森林保全や大規模な再生可能エネルギーの活用、生物多様性の保全など区内では難しい活動を他の地域と連携して実施
- ・ さまざまな主体の積極的なカーボン・オフセットによる排出ゼロを実現
- ・ 自分だけ、地域だけ、日本だけでなく、地球全体の環境問題を考え行動
- ・ ごみの資源化率30%達成
- ・ 一人一日当たりのごみ量480gに削減
- ・ 区民・事業者が再生可能エネルギーの拡大に投資できるしくみ

災害や環境の変化に対応できる都市

- ・ 太陽光発電やエネファーム、蓄電池など地域内での停電時対応のしくみ
- ・ 拠点開発エリアにおけるスマートシティの実現
- ・ 避難所に再生可能エネルギーや蓄電池を導入し、災害時にも自立した最小限のエネルギーを確保
- ・ 酷暑でも快適、健康に暮らせる
- ・ 自転車やウォーキングによる健康づくり
- ・ 雨水利用システムによるゲリラ豪雨対策

これまでの特徴的な取組み

◆ 太陽エネルギー利用システム設置費補助

大都市である足立区において最も利用しやすい再生可能エネルギーである太陽エネルギー利用システムを導入する方へ助成金を支給しています。

◆ 省エネルギー機器等の補助

省エネルギー家電や複層ガラスなど、省エネルギー設備・機器の導入を支援しています。特に省エネ性能5つ星家電の購入費補助は、太陽光発電などの設置が難しい賃貸住宅居住者にも利用できる制度で、区内の家庭部門の省エネ化に貢献しています。

◆ 切れ目のない環境学習機会の提供

幼児期から発達段階に応じて切れ目のない環境学習の機会を提供しています。特に小学5年生の夏休みの宿題としてワークブックを配付し、節電行動などを工夫し、家庭での省エネを実感してもらう「夏休み子どもエコプロジェクト」は区内の全小学校で実施しています。

◆ 省エネノート

いわゆる「環境家計簿」の足立区版で、月々のエネルギー使用量を報告することで省エネ意識を高めるとともに、報告実績に応じてポイントを付与し、エコグッズと交換しています。

◆ カーボン・オフセット

区が実施するイベントなどで排出するCO₂を、区内では難しい森林整備によるCO₂吸収量の増大でオフセットしています。

◆ 資源化の推進

事業者と連携し、家庭から出された「燃やさないごみ」を18種類に分別して資源化しています。これにより、燃やさないごみの約90%を資源化し、埋め立て処分される量は、23区で最も少ない量になっています。

また、家具などの木製粗大ごみを分別し、建築用資材「パーティクルボード」に再資源化しています。木製粗大ごみを建築用資材に再利用する取組みは、全国初です。

◆ 土地・建物の適正管理

いわゆる「ごみ屋敷」や植物の繁茂など、適切に管理されていないため、近隣に影響を与えている土地・建物について、「足立区生活環境の保全に関する条例」に基づき、区関係所管や町会・自治会などの地域団体と連携して、調査、指導、勧告などを行い、適正に管理され、安心して暮らせる生活環境を実現しています。

今後の取組内容の例

◆ 環境学習と人材育成

幼児から高齢者まで切れ目なく環境学習の機会を提供し、足立区の地域特性を学びつつ、区だけ、東京だけ、日本だけでなく地球的な視野で問題を考え実践行動できる人材を育成し、それぞれの自主的な活動を支援します。また、学習の成果を認定し、活用できるしくみづくりを推進します。

◆ 日常における環境配慮行動の推進

日ごろの生活や事業活動において消費エネルギーを削減する行動を広げます。

◆ 技術による省エネ型社会への転換促進

設備機器の更新や建築時のエネルギー対策の徹底により消費エネルギーの削減を徹底していきます。

◆ 再生可能エネルギーの活用

再生可能エネルギーの導入を拡大し、化石燃料に由来するエネルギー使用を減らし、エネルギーの低炭素化を進めます。

◆ エネルギーの効率的な利用とまちづくり

エネルギーを効率的に利用する機器、仕組みの拡大や、新たなまちづくりにおけるスマートタウン化を進めます。

◆ 交通手段の低炭素化

充実した公共交通、平坦な地形を活かして、交通の低炭素化を図ります。

◆ 資源循環型社会の構築

廃棄物、リサイクル関連事業者が多い地域特性を踏まえ、より一層のごみ減量と、資源化を進めます。

◆ 区内ではできない活動の連携

区内では難しい地球環境の保全に寄与する活動を他の地域と連携して推進します。

◆ 安心・安全で持続可能な都市へ

災害時の安心・安全の確保と、すでに現れ始めている気候変動の影響に適応する中長期的な取組みを行います。

◆ 環境対策と健康づくり、地域交流の取組み

環境対策による健康づくり、まちづくりなど相乗効果を意識した取組みを推進します。

足立区環境部環境政策課

〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1

電話：03-3880-6049